

	課題分析	授業改善策	改善状況 ◎○△
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○書くことに苦手意識をもつ児童が多く、読むことや書くことの指導に時間がかかる。 ○漢字の定着に個人差がある。 ○自分の考えの理由を書くのに時間がかかることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な形式の書く活動を意図的に取り入れ、基礎的なスキルの向上とともに、伝える楽しさを実感させていく。書き慣れることと、語彙を増やすことを目的として、日常的に日記や短作文に取り組むようにする。 ○授業の中では、新出漢字の習得時に言葉広げなどをして、語彙力とともにスキルを高めていく。また、個人の能力に合った漢字練習法を提案し、自分に合った方法を身に付けさせる。 ○タブレット等、ICT 機器の交流ボードを活用して、一人一人の考えを共有していくことや物語の場面ごとを要約する活動などを通して、自分の思いや考えを言葉で表現できる機会を多く取り入れ、思考力、判断力、表現力を育てていく。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○課題に合った資料を選んだり、複数の資料を関連付けて読み取ったりすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○用意した資料を読み取る時間を多く設定し、多様な考えを引き出す楽しさを実感させる。 ○タブレットなどを活用しながら友達との意見交流を行ったり、発表を行ったりする。そうした活動を通して、学習を広げたり、深めたりして、社会的事象として捉えられるようにしていく。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○問題文から演算決定をするための情報を読み取り、立式する力が弱い。 ○伴って変化する 2 量の関係や割合、面積や体積、角の大きさなど図形を苦手としている傾向が見られた。 ○ベーシックドリル診断シートの結果、「直方体と立方体」「およその数」「比例の関係」「単位量当たりの大きさ」の定着に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○他教科の学習の中で、積極的に割合や百分率を活用し、生活の中で実感できるように工夫していく。 ○問題文をよく読み、ポイントをとらえ、自分で図に整理する学習を繰り返し、題意に沿って立式できるようにする。 ○具体物、図、言葉、数、式、表、グラフなどを用いて考えたり、説明したり、互いに自分の考えを表現し合ったり、学び合ったり、高め合ったりするなどの学習活動を積極的に取り入れる。 ○ICT 教材を活用し、図形を視覚でとらえさせ、理解を深めていく。 ○ベーシックドリルを活用し、一人一人の課題のある領域の定着を図っていく。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○学習に対する興味関心はあるものの、予想したり、結果から考察したりすることが難しいと感じることがあり、発言できる児童が限られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の内容によっては、班の中で話し合いをもたせ、発言内容に自信をもって発言できるよう指導する。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○歌唱では言葉の発音や息の使い方を意識し、豊かな響きで歌うことや、各声部の音の重なりを聴き、響きを合わせて歌うことに課題がある。 ○リコーダーでは運指操作をスムーズに行うこ 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の歌声を録音し聴くことで、表現したい歌声に近づけていく学習過程を取り入れる。また、グループごとに友達の響きを聴きながら合わせていく活動を取り入れる。 	

	<p>とや、各パートとの関わりを考え呼吸や音色を合わせて演奏することに課題がある。</p> <p>○鑑賞では感じ取った曲想を、その根拠となる音楽の諸要素と結びつけて考えることや言葉で表すことに課題がある。</p>	<p>○リコーダーでは少人数で演奏する場を設定し、互いの音を聴きながらパートの関わりを考えていくようにする。</p> <p>○感じ取った曲想と音楽の諸要素を結びつけて考えられるよう、「なぜそう感じたのか」を教師が意図的に発問し考えていく学習過程を取り入れる。</p>	
図画工作	<p>○「感性や想像力を働かせ」て、「表現したり鑑賞したりする」資質・能力を、スパイラルに育成する必要がある。</p> <p>○思考力・判断力・表現力等を高め、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、学習の場面が「“国語” 言語活動か」、「“図工” 言語活動か」を意識して取り組む必要がある。</p> <p>○「活動を通して何が身についたのか」という視点に度々戻り、学習・指導の改善・充実を進める必要がある。</p> <p>○生活を豊かに美しくする造形や美術の働き、美術文化についての理解を進める学習を充実させる必要がある。</p>	<p>【内容】</p> <p>○「表現・鑑賞」全ての造形活動に「造形遊び」の要素を取り入れ、児童が主体的に活動できる中で、楽しく感性や想像力を育てていけるようにする。</p> <p>○鑑賞の対象の幅を「生活の中の造形」等、作品以外にも目を向けられるように育てる。</p> <p>○〔共通事項〕アの、形や色などを造形的な視点でとらえられるように、一部に“知識”も用いる。</p> <p>【指導】</p> <p>○「A 表現」の指導にあたり、児童が自分の良さや可能性を見出せるようにする。</p> <p>○常に児童が主体的に活動できるように工夫することで、楽しく活動できるようにする。</p> <p>○「“国語” 言語活動」を「B 鑑賞」のみから、「A 表現」でも扱う。</p>	
家庭	<p>○状況判断や資料の読み取り方に課題がある。</p> <p>○学校で学習したことが実践に結びつかない場合がある。</p> <p>○作品を仕上げるまでの時間に個人差が大きい。</p>	<p>○生活を振り返り、また生かすことへの関心をもたせるよう、課題解決型の授業を行い、自分の生活で活用していけるよう意欲をもたせる。</p>	
体育	<p>○苦手な種目に意欲的取り組みさせる工夫が課題である。</p> <p>○自他の運動の様子を知り、スキルアップをするための練習や場の工夫をする学習を引き続き行う必要がある。</p>	<p>○運動能力の記録を取り自己の目標をもたせて練習させる。</p> <p>○学習資料の内容を充実させ、教室や体育館に掲示して理解を深めさせる。</p> <p>○互いの運動を見合ったり、ICT 機器を活用したりして、教え合う活動を積極的に取り入れる。</p>	
外国語	<p>○英語で表現すること自体に、抵抗感を持っている児童が多くいた。</p> <p>○コミュニケーション力を高めるための活動を、楽しいだけで終わらせてことがあった。</p> <p>○書く活動に必然性を感じるように位置付けるのが難しかった。</p>	<p>○英語への抵抗感をなくすように、ALT と協力して分らないことがないように丁寧に指導する。</p> <p>○コミュニケーションにつながる活動の取り入れ方やねらいの提示を工夫し、一人一人が楽しく自信をもてるように良い声掛けをたくさん行う。</p> <p>○毎時間、簡単な書く活動を取り入れることで、スペルの定着を図る。フォニックス的な活動を取り入れ、単語を読んで書く力を付けていく。</p>	